アマチュアオーケストラ

新交響楽団第一一五回演奏会

中国作品展



アマチュアオーケストラ

新交響楽団第115回演奏会

1987年4月5日(日)2:00

東京文化会館

指揮：芥川也寸志

李　　煥之

春節序曲－大秧歌

呉　　祖強

二泉映月

――休　憩――

チャイコフスキー

ヴァイオリン協奏曲ニ長調

Ⅰ　Allegro moderato–moderato assai

Ⅱ　Canzonetta Andante

Ⅲ　Allegro vivacissimo

独奏：左　　軍

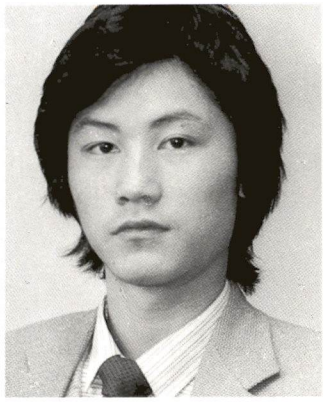
朱　　践耳

納西一奇

主催：新交響楽団
放送文化基金助成事業
後援：中国大使館
日中文化交流協会
ＦＭ東京
毎日新聞社
協賛：日本作曲家協議会

●ヴァイオリン独奏

左　軍　Zuo Jun



1966年中国江西に生まれる。上海音楽学院付属中等学校を経て、同学院在学中。
1984年中国全国青少年ヴァイオリンコンクール第２位。
芥川也寸志音楽監督が1985年、上海音楽学院を訪問した際、数人の学生による模範演奏を聴いた中で、サラサーテの「カルメン幻想曲」を弾いた左軍の卓越した技術と豊かな音楽性におどろき、即座に桑桐院長に対して日本招聘を申し入れ、それが今回実現したものである。

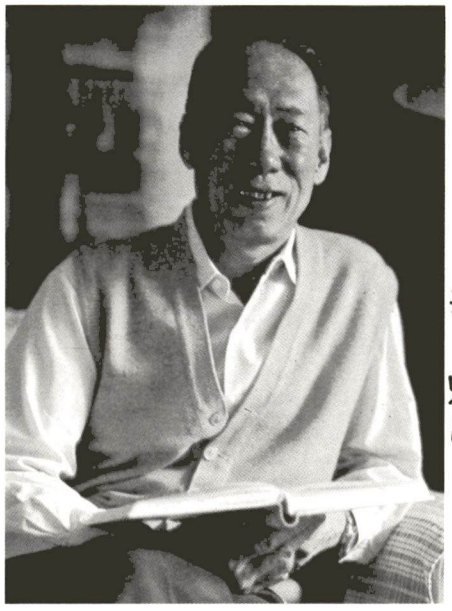
作曲家と作品

1. 李　煥之《春節序曲－大秧歌》

1919年香港生まれ。1936年上海国立音楽専門学校（上海音楽学院の前身）に入学し、蕭友梅先生等に師事。抗日戦争が始まってから、厦門（アモイ）や香港等で音楽活動に従事し、侵略戦争反対の革命歌曲を作曲。1938年、革命の本拠地・延安に赴き、延安魯迅芸術学院音楽学部で学ぶ。卒業後は同校で教鞭をとり、「民族音楽」誌の編集も担当、国内解放戦争期に華北連合大学文芸学院音楽学部の主任に着任。1949年新中国成立後は積極的に多くの音楽活動に従事し、中央民族楽団団長、中国音楽家全国協会副主席等を歴任。現在は中国音楽家全国協会主席。四十年来、数多くの音楽作品を創作し、音楽に関する論文等を300以上発表。声楽作品としては「民主建国行進曲」「新中国青年行進曲」及び中国全土に流行した「社会主義讃歌」等、その他に琴合唱曲「蘇武」及びオペラ「異国の秋」等があり、器楽としては管弦楽の「春節組曲」「第一交響曲－英雄的原海島」と琴協奏曲「泊灘江幻想曲」等がある。ほかに音楽理論に関する著書「作曲教程」と「音楽創作散論」を出版。

情報は友だち
RICOH
電話機である。
いや、ファクシミリである。
いやいや、コピーである。

電話もファクスもコピーも、
この小さな一台がこなします。
普通のファクシミリにつながる
3ウェイテレホン、あなたに新登場。
電話は、いつも便利です。でも、電話は、ときどき不便です。だって、私たちの毎日には、声だけじゃ伝わらないことがたくさんあるのですから。字にしないと、おたがいに不安。絵にしないと、相手にわかってもらえない。いまのあなたの電話だと、そのへんを解決するのは、ちょっとムリ。だから、リコーは、新しい考え方の電話機をつくります。
誕生 RICOH MT5
G3と交信
ファクス&テレホン
本体サイズ：幅243ミリ 奥行208ミリ 高さ150ミリ
原稿サイズ：A6判(ハガキ大)
本体標準価格 94,800円



李煥之

これは管弦楽「春節組曲」の第一楽章である。同組曲は1955年から翌年にかけて作曲され、第一楽章「序曲－大秧歌」、第二楽章「情歌」、第三楽章「盤歌」、第四楽章「燈会」の４つの楽章からなる。「春節」は中国の伝統的な祭日で日本の旧正月である。中国の人々は春節をとても大事にし、１年のうち最大の民間祭日とみなしている。この祭日には爆竹が鳴らされ、花火が上がり、花を飾って新しい着物を着、互いに新しい年も幸せ一杯の良い年であることを祈り合う。特に新中国成立前、共産党の根拠地である延安において、春節は政府や軍隊と大衆との間でお互いにいたわり合い、革命の闘志を励まし合って勝利を誓い合う重大な祭日とみなされていた。この祭日では、延安の軍民が情熱にあふれる「秧歌舞」という踊りを踊って祝っていた。作曲家の李煥之は当時延安に生活していたから、この組曲はその春節体験と感想によってつくられた。組曲全体の音楽主題は多く陝北地区の秧歌調と民間哨吶（ダブルリードの楽器）の曲調を取り入れ、また舞踊のイメージという特色もあり、中華民族の伝統祭日の楽しい情緒と雰囲気を強く表現している。

今回の音楽会で演奏されるのは第一楽章「序曲―大秧歌」である。ここで言う「秧歌」とはもともと中国地方の農村で伝わっている民間舞踊のことで、特に陝西省の北部から流行し、後に全国に及んだ。これは農民たちが野良仕事をした後に、或いは豊作や祭日を祝う時に、大勢が一緒に踊る楽しい舞踊で、日本の「盆踊り」にとても似ているが、リズムははげしく、曲調も昂進している。踊る時は皆色とりどりな鮮やかな着物を着て、両手で腰に纏っている赤い絹の端を引っ張ったり、或いはきれいなハンカチや扇子などを手にして、太鼓やドラなどのリズムと哨吶等の楽器のメロディーにしたがって、踊りの列の形を変えながらねり歩く。大変熱烈で、にぎやかなことから俗に「秧歌の騒ぎ」とも言われる。

「序曲－大秧歌」はこの踊りの描写で、秧歌騒ぎの時の太鼓やドラの音、歌声、そして踊る人々の姿と変化に富む列の形及び積極的に踊り出る群衆の踊りの場面を表現した。序曲は三つの部分からなっている。第一部（快板－ Allegro）の２つの音楽テーマは二つの陝北民間哨吶の曲で、民族楽器の太鼓やドラの音響とマッチして、大秧歌の楽しい雰囲気が表現されている。中間部（中板－ Moderato）の音楽テーマは抒情的でのどかな陝北のソロ秧歌調である。まずオーボエで始まり、チェロでくりかえし、続いてトランペットのソロにより、音楽は第３の部分（第１部の再現）に入る。最後に楽曲はピークに達し、極めて熱烈な雰囲気の中で曲を閉じる。

2. 呉　祖強《二泉映月》

北京中央音楽院院長、中国音楽家全国協会副主席、中国文学芸術連合会書記。1927年北京生まれ。少年時代は作曲家の張定和、声楽家の盛家倫の両氏に師事。1947年南京国立音楽学院に入学、江定仙先生に作曲を師事。1953年政府に派遣され、ソビエトのチャイコフスキー音楽院で理論・作曲を専攻。1958年卒業・帰国後、中央音楽学院の教師となり、現在に至る。ソビエト留学中の作品は主に「ピアノ変奏曲」「弦楽四重奏」、交響楽「祖国の大地にて」、清唱劇「洪水とたたかう」等があり、国内での創作はバレエ音楽「魚美人」、バレエ音楽「赤軍女子連隊」（いずれも杜鳴心と合作）、琵琶協奏曲「草原の幼姉妹」、民間音楽家華彦鈞の同名胡弓曲によって編曲した絃楽合奏曲「二泉映月」、琵琶と管絃楽のための音楽詩「春江花月夜」、胡弓と管絃楽のための「江河水」等がある。中でも絃楽合奏曲「二泉映月」は国際的に多くの国の交響楽団によって演奏され、「春江花月夜」と「江河水」両曲がボストン交響楽団のサマーフェスティバルで演奏された。この他に多くの声楽・器楽曲、映画音楽があり、また音楽理論書には「曲式と作品分析」がある。



呉祖強

原作は民間音楽家の華彦鈞（次頁参照）が創作した胡弓独奏曲で、七十年代の末頃作曲家の呉祖強によって弦楽合奏曲に編曲された。

江蘇省無錫市郊外にある名跡恵山公園の中には恵山泉という泉があり、「天下第二泉」と称されている。当時、華彦鈞がよくここで休憩し、山に寄って胡弓や琵琶を演奏して舒懐したり泉の傍にすわって昔のことを追憶したという。本曲「二泉映月」はこの質実剛直にして世間の辛酸を嘗めつくした盲目芸人が音楽によって深夜、清い泉に月が映される情景を描き、真心から醸し出した美しい旋律で人々に自らの辛い人生や、幸福に対する憧れと生きる強い意志を訴えた。呉祖強によって編曲された弦楽合奏曲は和音と復調などの管弦楽の手段を取り入れたため、表現力をさらに強め、原曲の情趣がより一層引き立てられることになった。

本曲は変奏法で創作され、短かいプロローグの後に三つの楽句からなるテーマが現れる。第一句は静かで深く、作者が泉の傍にすわって昔を追憶しているような雰囲気が感じられる。第二句はわずか二小節であるが、感情が激しく出て、作者の感慨無量の気持を表している。第三句は旋律が高音域で奏でられ、感情がさらに昂り、作者の頑強な意志を表現している。これは典型的な中国式の音楽テーマ構成法で、三つの楽句が順次に平静から激昂にかわるものである。テーマの後には数回の変奏がくるが、これには各変奏の間の対比を強調するのではなく、各楽句の拡張と縮小及び音域と音量の変化によって単一的で集中的な音楽のイメージをつくるという中国民間特色のある変奏手段を取り入れている。そのため、テンポも始終ほとんど変わらない。

華　彦鈞

今回演奏される「二泉映月」の胡弓曲原作者。1873年江蘇省無錫市生まれ。1950年逝去。父親の華清和が僧侶であったため、彼は幼少の頃から父親について僧の修業のかたわら、民間音楽を習った。彼は胡弓や琵琶等多くの民族楽器をたしなんだが、後に街頭の流浪芸人となり、無錫市の各地域で民間楽を演奏して、不安定なその日暮しの惨めな生活をしていた。この悲惨な境遇がかえってこの剛直の民間音楽家に多くの示唆を与え、自ら演奏する楽器から即興的に数多くの江南情緒に富む胡弓曲や琵琶曲を生み出さしめたとも言えよう。彼のこれらの曲は中国の民族的伝統音楽を受け継ぎ、発展させ、一方では彼の生活体験を綿密に表現し、その旋律と演奏手法には、真心が込められ、強く人々の心を打つ。新中国成立後、彼は政府から暖かく配慮され、自作の曲は録音、出版された。現在保存されているものとしては胡弓独奏曲の「二泉映月」「寒春風曲」「聴松」、琵琶独奏曲の「大浪砂を研ぐ」「昭君塞を出る」「龍船」等がある。

＊李、呉の項目――王耀華（日中友好音楽事務所長）

3. チャイコフスキー《ヴァイオリン協奏曲》

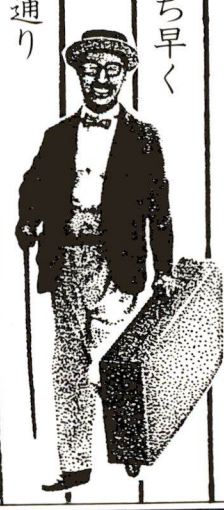
〝D大調（二長調）ヴァイオリン協奏曲〟作品35

チャイコフスキーのこの作品は1878年に作曲された。同年に完成させた悲劇性オペラ「エフゲニー・オネーギン」や「第４交響曲」と異なり、明るい雰囲気に充ち溢れ、ロシア民族音楽の趣きも備えている。規模の大きな第１楽章（ソナタ形式）は生活の楽しさを表現している。第１主題は唱歌性に富んで、ロシア民謡ののどかで、のびのびした性格を持っている。詩歌のような第２主題は明るく優しく、チャイコフスキーの典型的な旋律の特徴を備えている。しかし、祭日のような楽しい雰囲気を表現する挿入部において、第２楽章はもの想いをするような抒情で、第１楽章と対照をなし、「小抒情曲」と呼ばれている。主旋律は真摯で感動的な中にやや感傷的情緒を帯び、中間部分は逆に情熱的で楽しく、調子も暗淡な短調から明るい長調に移行している。終章は人々が賑やかに祭日を祝う場面で、このメイン主題の音楽イメージと展開手法はそれぞれ対照をなしている。第１主題はロシア舞踊風の軽快でリズミックなもので、これがソナタ形式で展開される。第２主題は活気に溢れ、同様に舞踊風だが、ロシア民謡的色彩の変奏で展開される。作曲者はまた第２主題の中に抒情の曲を取り入れることにより、主部の熱気を帯びた楽しい情緒をよりよく対比させている。コーダは第１主題を基礎にして再びこの曲の潑剌とした情緒でしめくくっている。

＊チャイコフスキーの項目――中国版≪音楽鑑賞手冊≫の和訳

一泊二圓五十錢

「東洋最大・全館冷暖房」を謳い文句に、
昭和十三年、開業。その画期的な
規模と設備に加えて、いち早く
「定額低料金」を採用。
新橋第一ホテルは、文字通り
シティホテルの先駆をなしたのです。
以来四十余年、常に創業の心を忘れず、
快適で安全なホテルづくりに努めてます。



シングル¥9,500より（税・サービス料別）



新橋駅から歩いて2分

新橋第一ホテル
東京都港区新橋1―2―6 ☎03(501)4411
●ご予約は東京レザベーションセンター☎03(501)5161

4. 朱　践耳《納西一奇》



1922年中国天津市に生れ、上海に育つ。中学生の頃より独学で音楽を学ぶ。1940年芸術歌曲の創作を開始。1945年人民解放軍文芸工作団で作曲家及び吹奏楽の指揮者を勤める。1950年映画音楽の作曲を始める。1955年ソ連に赴きモスクワのチャイコフスキー音楽院の作曲科で学ぶ。1960年帰国。現在は中国音楽家協会常務理事、創作委員会委員、上海市文学芸術連合会委員、上海日本音楽研究会会員として活躍。

作品は情熱的で、多様な形式が用いられており、これまでにソ連、日本、西ドイツ、スウェーデン、ルーマニア、アメリカ等で公演されている。

主な作品は以下の如し。

管弦楽：≪節日序曲≫(1958)——名古屋フィルによって1986年5月18日演奏、交響詩≪祖国頌≫(1959)、弦楽合奏≪懐念≫(1978)、≪交響幻想曲≫(1980)—(1981年中国文化部の交響作品優秀賞を受賞した) 交響組曲≪黔嶺素描≫(1982)——第10回“上海の春”優秀賞受賞、交響音詩≪納西一奇≫(1984)——第11回“上海の春”優秀賞受賞、第1交響曲(1986)——第12回“上海の春”1等賞受賞。

舞踊劇：≪南海長城≫(1965)。

合唱：交響楽——大合唱≪英雄の詩篇≫(1959—60)、無伴奏合唱組曲≪緑したたる水郷≫(1981)。

室内楽：ピアノ序曲≪流水≫(1955)、主題と変奏曲(1953)、叙事曲≪思凡≫(1958)、雲南民謡五首(1962)、弦楽四重奏(1957)。

民族楽曲：≪抵抗の日々≫(1953)。

この他独唱、合唱の歌曲を多く創作しており、その中の少なからずの作品が全国各地で唱われ、愛されている。

納西とは？一奇とは？

朱　践耳

“納西”とは何か？“一奇”とは何か？

中国南西部に雲南省がある。滔滔と万里を流れる長江（揚子江——その上流を金沙江と呼ぶ）は北から南へと雲南省の北西部に流れ込む所で突然180°の方向転換をして北へと流れ、100km以上流れた後再び方向を南へと転じ、その後又北へと方向を変えて中国大陸の半分を横切って海へと流れ込んでいる。ちょうどこの“Z”字形の“揚子江第一湾”の地域、万年雪の積る玉龍山の麓に一個の古い民族——納西（Nash）が居住している。麗江納西族自治県はその中心地区に当たる。

納西族は人口こそ少数だが古い歴史と文化を擁する。八世紀に於いて既に一種の象形文字を創造し、これは現存する唯一の完全かつ系統的象形文字となっている。この種の象形文字で綴られた数千巻の“東巴経”は納西族の古い神話物語・叙事長編詩・民謡・諺・生活風習を記録している（下図参照）。



——摘抄自纳西族象形文字经书《东巴经・崇搬图》。　译文：

崇仁利恩豪迈地说：
开天九兄弟是我的父族；
辟地七姊妹是我的母族。
我呀！
三只牛腿一口嚼，噎不得！
三斗炒面一口吞，哽不得！
大江冲嘴里，不觉呛！
大山装肚里，不觉胀！
我是————
所有的砍手来砍也砍不死的种族！
所有的锤手来砸也砸不烂的种族！

晋休　　译

——以上は納西族象形文字の経書≪東巴経・崇搬図≫から抜粋書写したものである。

訳文：

崇仁利恩（chong-ren-li-en）は豪放闊達に言った。
天を開いた九人の兄弟は吾が父の民族で
地を択いた七人の姉妹は吾が母の民族だ。
そして吾輩は！
三頭の牛の腿（モモ）を一口でほおばっても

つかえない！
三斗のうどんを一口で呑みこんでも
つかえない！
大河の水が口に流れ込んでも、せきこまない！
大きな山を腹に呑み込んでも、腹は張らない！
我々は――――
全ての斧持つ者が来て斧をふるっても決して切り倒されない民族だ！
全ての槌持つ者が来て槌をふるっても決して打ち壊されない民族だ！

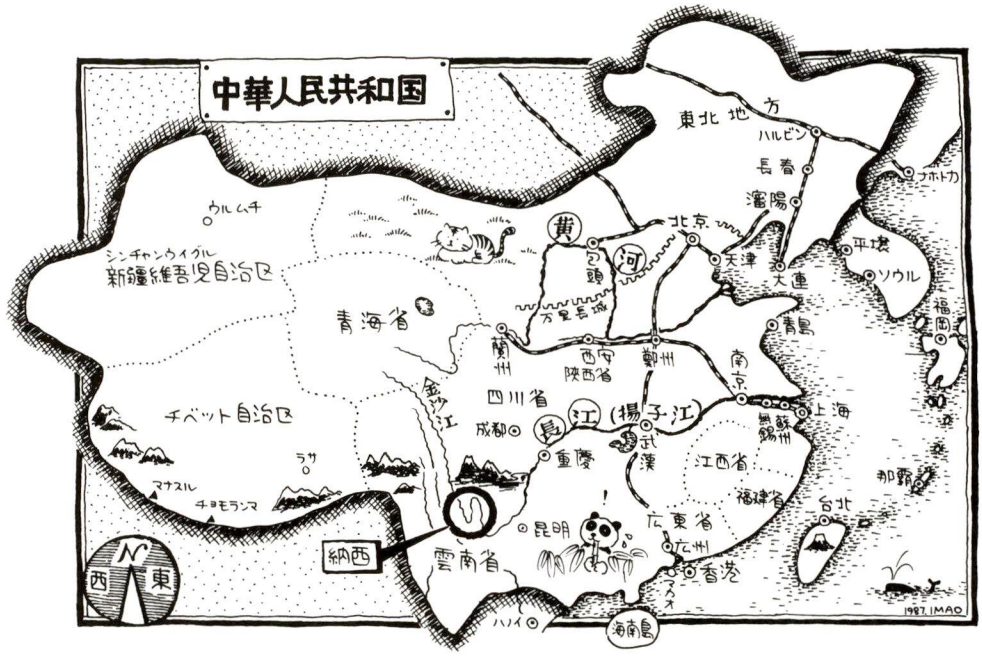
晋休　訳

注：崇仁利恩は伝説中の納西族の祖先。

“東巴経”は納西族に特有の多神教である。経文を唱える時には歌や踊りを伴い、これは納西文化の重要な一部分となっている。最近東巴舞の振り付けを記録した舞譜が発掘された。これらは世界的にも稀なる珍奇な文物である。

納西の音楽もまた珍らしくかつ多彩で、納西文化数々の珍奇中の珍奇である（題名の“一奇”は納西の珍奇な文化の一つである納西音楽をさしている）。東巴唱腔（東巴のふしまわし）はその伝統にふさわしく重量感がある。男女二部複調対位合唱“窩熱熱”（o zei zei）は剛健で荒々しくまた鋭く、山野の風格に満ちている。他方“口絃”の音楽は大変細やかで柔らかである。“口絃”は竹片で作った簧片（リード）楽器で（オルガンやハモニカのリードに似ている）簧片は三つ有り、左手で握って唇に当て右手指ではじいて演奏する。口腔の形の変化によって各種の音色と三つの基本音以外の多くの overtone を出すことが出来、多調性（polytonality）のリフレインを形成することが出来る。口絃音楽には数十種の曲調があり、それぞれに“蜜蜂の河渡り（蜜蜂過江）”“銅盆と滴漏（銅盆滴漏）”等の標題がついている（滴漏とは古代の人が水滴を利用して時を計った道具）。“口絃”は音楽であるのみならず一種の特殊な言語信号でもある。青年男女が愛を語り合う時、言葉を用いず口絃をはじいて心のうちを告げ合うその巧みさは正に言語を絶する。

1982年と83年、私は雲南省麗江地区を訪れた。神秘的な“口絃”や、東巴のふしまわし民間歌謡、民間音楽を聞いて、私はすっかりこれらにとりつかれてしまった。そして私が更に愛するのは納西族人民のあの勇敢豪放かつ情緒豊かな性格である。これが音楽詩≪納西一奇≫誕生の由来である。



渋谷弦楽器

ヨーロッパ・アメリカの現代製作者による弓が多数入荷しました。
価格は20万円より。我々の工房でつくられた新作バイオリン、
ビオラもおためし下さい。価格30万円より。もちろん1700年代
のイタリア銘器をはじめ、仏銘弓も多数在庫しています。
お気軽に御試奏下さい。

ADRESS　〒150 東京都渋谷区鶯谷町19-19
第3叶ビル211号（渋谷駅より徒歩5分）
TEL　03-463-5448

朱　践耳と≪納西一奇≫

上海日本音楽研究会副会長
羅　伝開

1986年10月14日、中日両国の音楽文化交流の促進及び、上海地方の中国音楽家と日本音楽家の交わりを深めるため、更には日本音楽の歩んで来た道とその経験の研究を趣旨とし、東洋音楽の展開に寄与する事を期し、上海で「上海日本音楽研究会」が結成されました。その際、團伊玖磨先生と芥川也寸志先生に研究会顧問をお引き受け頂き、中堅作曲家を主要メンバーとする同研究会では、心から感謝しております。この度、中国の代表的作曲家李煥之(リーワンズー)氏、呉祖強(ウーツウーチャン)氏、朱践耳(ツウーゼンエル)氏の代表作品の演奏と、上海音楽学院の若きバイオリニスト左軍(ツオーチエン)の日本でのコンチェルト独奏、そして併せて同研究会のメンバーで中国屈指の作曲家朱践耳氏の日本訪問が、芥川也寸志先生と新交響楽団のご協力で実現出来ました。私たち上海日本音楽研究会としては成立早々意義ある重要なイヴェントが実現出来、改めて皆様に厚く御礼申し上げます。

では、朱践耳氏の近作をご紹介しましょう。上海音楽学院客席作曲教授である朱践耳氏の作品が世間に知れわたったのは35年前頃。当時は主に歌曲と映画の音楽が主で、その後の作品は管弦楽曲、室内楽曲、バレー音楽、カンタータなど広範囲にわたり、ことに規模の大きい作品が注目を浴びています。その中、≪節日序曲≫(1958)は、ソヴィエトと西ドイツで演奏され、又名古屋フィルでも演奏されました。1981年中国文化部の交響音楽優秀作品賞を得た≪交響幻想曲≫(1980)は、1984年のモスクワ国際音楽フェスティバルに取り上げられ、ウクライナ国家交響楽団により演奏、又スウェーデンラジオ交響楽団によってストックホルムで演奏された交響組曲≪黔嶺素描≫(1982)も好評を博しました。1978年以来「上海の春」音楽祭では毎年新作が初演され、全て創作優秀賞を受けています。ことに≪第1交響曲≫(1986)が上海と北京で演奏された時には、強烈な反響が起こりセンセーションを引きおこしました。

さて、この度日本初演される≪納西一奇≫は1984年春の作品で、その2年前から朱践耳氏は納西族(ナーシー)自治県が在る雲南省の文化古城麗江(リーチャン)に行き、三十万人の納西族が住むこの山奥の幽玄新奇な世界に驚異の目を見張ったのでした。納西族は、唐の時代に独特な象形文字で「東巴経」を著しました。また最近発見された納西族の舞踊譜は世界最古のものと言われ、大変珍しく貴重な文献だということです。

納西の音楽も格別で〝一奇〟。ことに彼らが用いる口琴の一種で、三枚の薄板を口唇の近くではじいて音を出す『口絃』は、音楽を奏でるばかりでなく対話の役割をも果し、変のささやきには欠くべからざるインストルメントになっています。その口絃の音楽の音色とリズムはバラエティーに富み、ある時はポリトナリティックな重なり合いをします。しかもその音型は色々な造型的な標題が付いています。朱践耳氏は、口絃のこれらの特徴を生かしつつ、納西民謡の特徴も取り入れ≪納西一奇≫と命名したシンフォニックな音詩を作曲したのです。

曲は4楽章から成りますが、全て口絃の音型にもとずく音調(イントネーション)で多調性の技法で構成されています。第1楽章「銅盆滴漏」では、終始反復されるD音が、多調性的に流れる他の声部にかまわず、変わることなく鳴りつづきます。

生活の嵐と闘う勇猛な性格を現わそうとした第2楽章「蜜蜂渡江」では「蜜蜂」と「大河」が5度へだたった複調性で動き、クライマックスに盛り上がる時には各々短3度上下に移行し、同じ調性に行って又5度関係に戻るのだが、各々の位置は換わり「蜜蜂」は河を飛びこえて行ってしまうのです。

第3楽章「母女夜話」では、まず母と娘を表わす2つの主題が、同じ調性で始まってから長2度上下に移動、複調性で展開した後、意見のわかれを解消した様に又初めとは違った調性で一緒になります。

狩猟生活をするひょうかんな性格を現わす第4楽章「狗追馬鹿（馬鹿という動物名)」の多調性は、多い時には7つの調性と7段のレベルに分かれて進行する音の流れは、種々の方法でつながってゆきます。

封建社会の時代、納西族の恋愛は自由でしたが、結婚は不自由で父母の言いつけにそむく事は絶対に許されませんでした。それでは天上の「五龍茅三国」で夫婦になろう、と山奥で心中する悲劇が起こったそうです。このような剛あり柔ある性格を、朱践耳氏は各々第2、4楽章と第1、3楽章で表現しようとしたのです。

構成がしっかりして論理的、和声とオーケストレーションの色彩が豊か、感情の表現がキメ細かく品格があり、民族音楽の特徴を巧みに作曲技巧と結びつける――これは朱践耳氏の作品に見られるこうした特色に、この作品では又素朴で原始的な美が添えられているようです。この曲を通して、中国の管弦楽曲の創作について、日本の方々が興味を持って頂くことになれば幸いです。

於上海



芥川さんの、そして皆さんの成功を祈って

團　伊玖磨

1976年秋の〝四人帮(スーレンパン)〟逮捕に依って所謂〝文化大革命〟が終焉する迄の十年間、中国全土に吹き荒れた大混乱の嵐は、それが意識的に惹起された混乱であった当初から、四人帮の専横がその上に重層の混乱となって覆さり、遂には当初の意識を全く失い、騒擾以外の何物でも無くなってしまった。その末期に至る迄の間、中国の知性的人物、理性的、芸術的人物が受けた迫害と打撃は、外国の人間には判りようの無い程惨忍な、そして壊滅的なものであった。あらゆる知的な人物は発言を封じられ、活動を停止され、遠隔な地方に〝下放〟され、収監され、非協力的な人物は自殺に追い込まれ、又、殺害された。

今夜演奏される作品の作曲者達も、この十年間を、何処かで、耐えに耐え、どうにか生き延び、その知的本性を失わずに〝還って来た〟人達なのである。

1966年に初めて訪中して以来、72年、74年、76年、と度々訪中した機会に、僕は一人でも多くの中国の作曲家、演奏家に逢う事を心掛けた。然し、殆んどそれは不可能事だった。あらゆるヨーロッパ音楽は何処かへ行ってしまい、作曲家も、演奏家も、何処かへ隠れてしまっていた。時たま逢う事が出来た音楽家も、你好！　再見！以外の言葉を発さなかった。後で聞いたところでは、外国人と話す事が許されるような状態では無かったのだそうである。僕が既にその存在を知っていた李煥之とも、呉祖強とも、朱践耳とも逢えぬ儘に、十年間が過ぎる。

1976年は中国の現代史の中でも、永久に忘れる事の出来ぬ〝大轉換〟の年であった。一月に周恩来が死ぬ。四月、周恩来を悼んで集まった大衆行動に四人帮が干渉した事で起こった天安門事件（この二日後に、武満徹、松村禎三、丹羽正明達と僕はこの事件の場に居た）、七月に朱徳の死、九月に毛沢東の死、そして十月に四人帮逮捕、文革の終焉が続くのである。1977年の三月、北京では李徳倫指揮の中央楽団が十年振りにベートーヴェンの第５交響曲を演奏、上海では黄貽鈞指揮の上海交響楽団がドヴォルザークの「新世界交響曲」をこれ又十数年振りに演奏、各地からは北京、上海に続々と音楽家が歸り、中国の音楽界は、世界復歸に向かうのである。

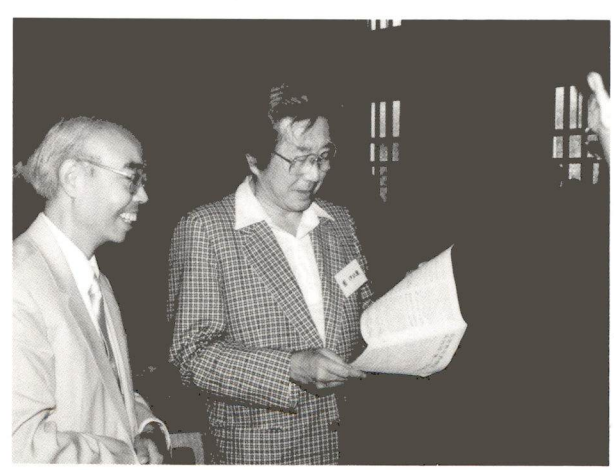
李煥之、呉祖強、朱践耳の諸兄と僕が逢い、親交を結ぶようになったのはこの時以来である。やがて、李煥之は呂驥の跡を嗣いで中国音楽家協会主席に、楫楓の跡を嗣いで呉祖強は中央音楽学院院長に、朱践耳は、今夜の演奏曲目「納西一奇」又「「交響曲」の成功で押しも押されもせぬ上海交響楽団専属の作曲家となり、現代中国の三人の指導者となるのである。

芥川さんが、今回、李煥之、呉祖強、朱践耳の作品をプログラムに組んで、新交響楽団と共に一夜の演奏会を催される事は、殆んど現代中国の交響作品が演奏される事が無かった日本の音楽界の中での、劃期的な事であると思う。ヨーロッパとアメリカにのみ耳を向けている日本の音楽界の後進性（失礼）に対して、すぐ隣国にこういう作品が続々生まれているという事実を知って貰うためにも、今回の芥川さんの考えは大きく評價されて良いと思う。

今夜の三曲目は、年代的に三代の作曲家の作品が撰ばれている訳ではない。1919年生まれの李煥之、1922年生まれの朱践耳、1927年生まれの呉祖強、その生年を考える時、三人の年齢は十歳と違わない。然し、その手法を考える時、近代の音楽作曲手法の典型とも言える李煥之の作品、まさに中堅的手法の呉祖強、より手法的に新しい朱践耳の作品は、あたかも三つの現代中国音楽の流れを表しているように受け取られ、芥川さんもその意識の上でこの三つの作品を撰ばれたものと思う。もとより現代中国の音楽には、より古い手法に依った、例えば賀緑汀の作品のような流れもあるし、多くの若い作曲家の手になるよりずっと新しい流れの作品もある。然し、すべては根幹から始まる事を思えば、中心的な三つの流れの音を先ず日本の聴衆に紹介する事から始める道を芥川さんと新交響楽団が撰んだ事は、オーソドックスな考えであろうと思う。

こうした企画は、今回一回限りのものとしてはいけないと思う。今回の曲目から始まって、まだまだ多く紹介される可き中国の現代曲を、共通な民族的問題を多く抱えている日本の作曲界の指針にも、少しでも多く演奏していただきたいと思う。

李煥之、呉祖強、朱践耳三兄の日本に於ける成功を祈り、優れた意志によって、今夜の演奏会を具現された芥川さんと新交響楽団の成功をも無論加えて、心から、お祝いしたいと思う。



上海交響楽団練習所にて朱践耳氏（左）と筆者。
東京交響楽団訪中時のスナップ（1986.10月）

中国の音楽教育事情

岩淵　龍太郎

中国に於ける所謂西洋クラシック音楽の分野での近来の大発展は誠に目を瞠るものであり、心から感嘆の念の禁じ得ないものがあります。そのことについての認識は徐々にではありますが一般に浸透しつつある様でありまして、御同慶の至りと存じて居りますが、しかし近くて遠いアジア圏の音楽事情に就いては、この情報過多といわれる我が国においてもその盲点になっていまして、これだけ日中友好ムードが盛り上っているといわれる最中にも、実は我が国楽壇では中国の音楽事情に未だ極めて不充分な情報しか齎されて居らないという点に就いては、音楽を通じての日中友好を希う私の日頃心に懸って居る事の一つなのであります。

一昨年團伊玖磨団長の日本人音楽家代表団の一員として始めて訪中以来、それ迄も中国のヴァイオリン界の躍進ぶりに讃嘆の念を禁じ得なかった私も、その秘密の一端に触れ得た様に思いました。そして昨年は主として瀋陽音楽学院に招聘されまして一ヵ月のレッスンを通じて中国の若い世代のヴァイオリニストの卵に触れ、又秋には中国で始めての国際ヴァイオリン・コンクールの審査員に行かないかという芥川さんのお薦めもあって半月程訪中し、中国におけるヴァイオリン教育――音楽教育の可成りの部分の実体に触れ得たのは極めて私にとって貴重な体験でもあり又収獲でもありました。

私が観察した処では、中国大陸というのは文字通りユーラシア大陸であるということであります。従って今日の中近東で発生したと伝えられる弦楽器――その中でも弓の毛でもって弦を擦る擦弦楽器が東漸して胡弓になり、その胡弓が中国の伝統音楽の中に極めて日常的に多用されているということです。

その点我が国にも胡弓は伝承されては居ますが、日本の伝統音楽は殆んど、弦楽器は弦楽器でも弦をはじく撥弦楽器である所のお琴の類いであるか或いは三味線の種属でありまして、それが圧倒的な主流で、胡弓が活躍するジャンルは残念ながら誠に少いと言わざるを得ません。

勿論中国にもお琴の分野は誠に多種多様を極めて素晴しい分野を形作ってはいますが、擦弦楽器をしのぐということは全くありません。劇場へ行って御覧になると殆んど例外なく楽団の最前列に擦弦楽器がずらりと並んでいる光景を目にされると思います。その様な意味で中国の人達は擦弦楽器であるヴァイオリンにも、伝統的に何らの物怖じすることがないことは大きいことだと思いました。

たしかに中国の洋楽分野の大躍進が本格化されたのは文革以後のことであります。併し、中国の洋楽史を注意ぶかく観察して見ると、うっかりすると日本よりも長い歴史があるのではないかとも思うのです。それは中国に西洋音楽が流入した経路が大きくいって二つあるからです。

一つは上海であり、一つは東北地方のハルビンであるのです。

あの不幸な阿片戦争以来上海が大きな窓になって西欧の文物が流入しました。その中に西洋音楽、そして弦楽器の名手達も中国に流入して来ました。それは又実にヴァライエティに富んでいて、フランス楽派のマッサールの系列のもの、ドイツのヨアヒムの正統派を誦するもの等々枚挙に暇のない位で、現在年輩の方々に聴いて見ますと、誠にしっかりした基礎教育を受けて居られた事が判ります。一方北の方ではハルビンで、之は主としてアウアーの流れを引くロシヤ風の、これ又誠にオーソドックスな音楽及び奏法の伝統が流入して居ます。

そして第二次大戦の戦中特に戦後は、大部分のヴァイオリン教育がソヴィエトのモスクワを中心に、東欧各国に留学生を送り出して、之亦誠に立派な教育を受け、素養を身につけて居られるのであります。



第１回国際ヴァイオリン・コンクールの審査室で。右から筆者、芥川也寸志、中国文化部（文化省）の職員たちと（於北京. 1986. 9月）。

その様な長年の蓄積の上に文革後は殊に急速に若年層の発展が質量共に豊富で、その様な意味もあって昨年九月に第一回国際ヴァイオリン・コンクールが北京で開催され、そしてサブ・タイトルには「青少年のための」という言葉が銘打たれている事にも誠に象徴的なものを感じます。正に十代のジェネレイションの中国はヴァイオリニストの一大豊庫であります。

そして現代の中国のヴァイオリン界に取って忘れられない恩人は、サー・ユーディ・メニューヒンでしょう。第一回国際コンクールもメニューヒンを名誉審査委員長に推戴して行われました。

本夕の独奏者の左軍君も、その様な俊秀の一人であります。きっと皆様方が彼の演奏を堪能して下さるものと信じて疑いません。彼の演奏の成功を祈るや切なるものがあります。

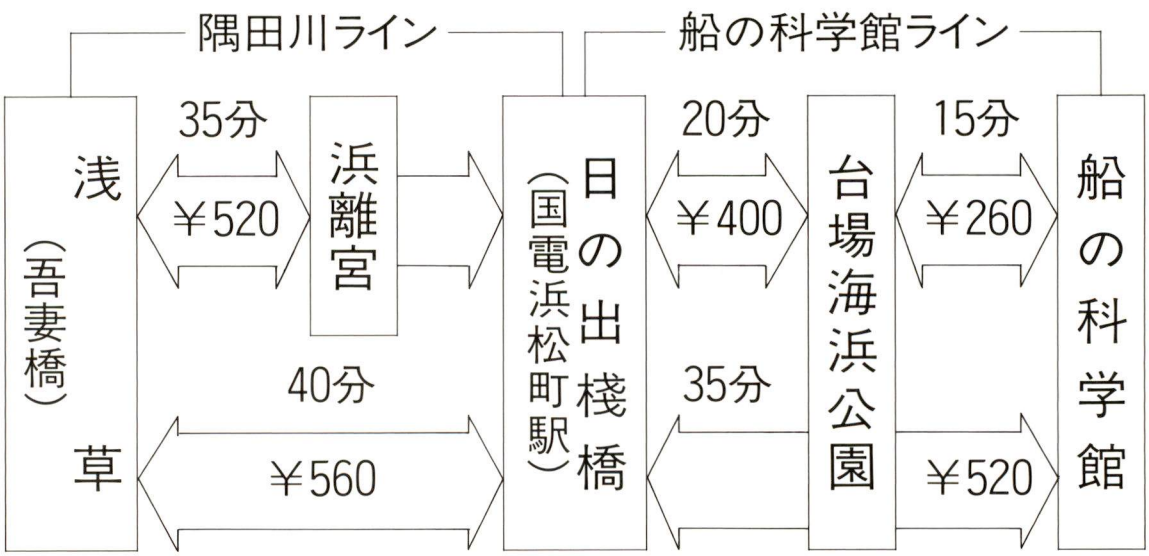
私事に亘って誠に恐縮ですが中国音楽家協会主席の李煥之氏、又中央音楽学院院長であると同時に国際コンクール運営委員長をも務められた呉祖強氏とは御一緒に何度も杯を交わした、親しくも尊敬すべき斯道の大先輩でありこの方の作品が演奏されるのは何とも嬉しい限りです。朱践耳氏については個人的に識りませんので、之亦フレッシュな魅力を感じます。

本当にこの様に内容の充実したコンサートが行われますことに対し、芥川さん及び新交響楽団の皆さんに敬意と祝意を表させて頂きます。



隅田川・東京港

水上バス



東京都観光汽船㈱

浅草☎03-841-9178　日の出☎03-457-7830

●座談会
中国オーケストラ事情
——在日中国人演奏家たちに聞く('87.2.18)

出席

潘　寅林（パン・インリン）
1947年上海生まれ、上海音楽学院に学ぶ。1969年上海交響楽団に入団、コンサートマスターを務めたあと独奏者として活躍。1981年に来日し、読売日本交響楽団に入団、現在は同団のコンサートマスターとして活躍。

楊　建華（ヤン・ジァンホアン）
1943年上海生まれ。上海音楽学院で学び、上海音楽学院四重奏団の第1ヴァイオリン奏者を経て1983年からロサンゼルスのパサディナ交響楽団に在籍。84年に来日して現在は東京交響楽団のヴァイオリン奏者。

方　智謀（ファン・ジムォ）
1948年ハルビン生まれ。7歳からヴァイオリンを始め、瀋陽音楽院で学ぶ。中国遼寧省歌劇院交響楽団、中国北京映画交響楽団などの奏者を歴任。1984年に来日し、現在は東京交響楽団のヴィオラ奏者を務めている。

司会・近藤　滋郎（音楽ルポライター）


前列左から近藤、楊、松木、潘。後列左から今尾、方、樋口、川辺、落合。

新響出席メンバー

松木　英作（Vn）	橋谷　幸男（Cb）
川辺　　亮（Vn）	落合　　宏（Trb）
樋口のぞみ（Vn）	今尾　恵介（Pc）
奥平　　一（Va）	

——今日は中国のオーケストラの話しを聴かせてもらうのですが、まず始めに、中国にはいくつくらいのオーケストラがあるかから教えてください。

方　北京には、中央（交響）楽団、放送（交響）楽団、それに映画、バレエ、オペラそれに新しく北京交響楽団というのが出来ました。あとは軍隊の各部隊ごとにオーケストラがあって、北京だけで10以上あります。それに、オペラのオーケストラとは別に民族楽団という民族楽器だけのオーケストラもあります。

落合　軍隊のオーケストラはフル編成ですか。

方　そうです、弦楽器と管楽器が全部揃っています。兵隊の楽しみのためにダンスや歌などの伴奏をしています。

川辺　軍隊がフル編成のオーケストラを持っているのは珍しいですね。

方　地方の、何も無い所に行って演奏することが多いです。

落合　そのメンバーはみな音楽の専門家ですか？

潘　そうです音楽学院の卒業生です。

方　給料が高いからみんな入りたがりますよ（笑）。

——クラシックを主にしたオーケストラというと？

方　北京では中央、放送、映画、北京の4つだけ、コンサートを中心にしたのは中央と北京の2つだけですね。

——上海はどうでしょうか？

潘　上海交響楽団、映画、オペラ、バレエ、それに放送楽団が主なもので、ほかに伴奏専門のオーケストラもいくつかあります。

——それ以外の都市ではどうですか？

楊　大きい都市はどこにもあります。広州の楽団は大きいですね。

方　あとは瀋陽、天津、西安……、長春は映画の町だからオーケストラもたくさんある。

——北京の中央楽団と上海交響楽団は有名ですね。

楊　そうね、町が大きいし、歴史もあるから。上海交響楽団は1879年に出来て、東洋では一番古いオーケストラです。

奥平　戦前には朝比奈隆さん、戦後に芥川さんも指揮をしているそうですね。

潘　それは僕の入る前の話しね（笑）。

——その頃は外国人が多かったのでしょう？

楊　指揮者もメンバーも外国人中心だった。今の香港のオーケストラみたいなものです。

奥平　それが中国人の手に移ったのはいつ頃なのですか。

潘　戦争が終った時は95％まで外国人だった。1949年に中華人民共和国が出来た時もまだ外国人が残っていました。

方　1958年くらいから中国人だけになったと思う。

——中央楽団はいつ頃できたのですか。

方　たしか1947年だと思う。ここも最初は外国人がいました。でも外国人がいちばん多かったのはハルビンのオーケストラ。中央楽団にはハルビンの人が多く入りました。

中国にもアマ・オケはある

落合　オーケストラのメンバーは皆さん音楽学校を出られているのですか。

楊　ほとんどそうです。日本は高校までは音楽学校ないですね。でも中国は中学くらいから音楽学校に入って音楽の勉強をします。

橋谷　音楽家になる、というのはかなり小さい頃に道を決めてしまうのですね。

楊　音楽学校は10歳ころ小学校の3年から入りますが、希望者が多くて入るのがたいへん。もうこの頃には何でも弾けるようになっていて、その中から選ばれて入学するのはとても難しい。

樋口　みんなそれまでに習っているのですね。

楊　3～4年以上はやっていますね。そうとう難しい曲がオーディションに出ます。

——今は、オーケストラのメンバーは皆中国人ですね。

潘　指揮者も音楽監督も全部中国人です。でも外国の指揮者もよく来て、上海には今年バーンスタインが来る。

落合　そうしたオーケストラのメンバーの社会的な地位はどれくらいなのですか。

潘　給料はそれほど変わりません、日本は音楽家のほうが安いけれど（笑）。仕事の内容では、みんなから羨ましがられます。だから子供を音楽家にしたがる親がとても多い。日本は趣味としてやったひとが専門家になっているけれど中国は違います。

落合　ところで、日本のアマチュアのようなオーケストラはあるのですか。

潘　あります。例えば銀行や工場などでクラブのようにやっている。でも日本ほど数は多くない。

——そういう人達は音楽学校には行っていないのですね。
潘　音楽学校に行った人は皆専門家になります。アマチュアのオーケストラの人は自分の興味で楽器を勉強した人です。
落合　大学はどうですか。
楊　大きな大学にはオーケストラがある。

音楽史が止まってしまった文革時代

落合　中央交響楽団や上海交響楽団の実際の活動はどのようなものですか。演奏会の回数とか、演奏旅行とか……。
方　中央交響楽団は月に1回定期演奏会をやっています。今年で300回を超えたと思います。それ以外は田舎に行ったり、映画の仕事をしたり、でも中央交響楽団はいちばん演奏会の回数が少ないね。
——それで他と同じ給料を貰っているんですか？
方　そうね、それに時間がいっぱいあるから自分で教えたりしている。だからみんなあんまり演奏会をやりたくないね（笑）。それとアルバイトで室内楽などをやっています。演奏旅行は年に1回か2回だけ。
潘　上海はここ2年くらいよく演奏会をやっています。団長がしっかりしているし、外国から指揮者を呼んだりしてレパートリーが広くなりました。1年前の話しですけど、2週間に1回定期をやっていた。今ちょうど香港に演奏旅行に行っていますが、3人の指揮者で3つのプログラムを持っていっています。文化革命の前は毎週日曜日に定期をやっていた。でも文化革命の間はダメでした。とにかくこの間は革命のシンフォニーばかりやっていて、オーケストラ音楽の歴史が止まってしまったわけですから。若い人も育たなかった。今はようやく回復期というところですね。
——今回、新交響楽団が中国人の作品を3曲演奏しますけど、中国のオーケストラはこうした作品をよく取り上げますか。
方　≪春節≫の序曲と≪二泉映月≫はポピュラーです。
潘　≪納西一奇≫は2年くらい前に出来た曲で、まだそれほどポピュラーではないと思いますよ。定期演奏会で中国人の作品をやるのは、日本で日本人の作品をやるよりは多いけど、でもそんなに多くはない。
落合　外国人の作品ではどんな曲を演奏しますか。
楊　だいたい日本と同じだけど、チャイコフスキーとベートーヴェンが多い。
落合　マーラーとかブルックナーは？
潘　まだ少ないね。僕がいたころは文化革命が終ったあとで、そんなにたくさんのレパートリーはなかった。でも今はもう日本とほとんど同じになっています。それと、若い人を中心にした中国青年交響楽団というのがあって、今ヨーロッパに演奏旅行していますが、R.シュトラウスの≪ドン・ファン≫を持って行ってます。
楊　東京交響楽団が去年の秋に中国へ行ったとき、上海交響楽団と交歓会をやりましたが、そのときブルックナーの4番を聴かせてくれました。
橋谷　演奏会でお客さんはいっぱい入るのですか。
潘　ときどきね（笑）。
方　ほとんどが音楽をやっている人が勉強のために聴きに来ます。
潘　指揮者やソリストが有名な人だとお客さんも来る。
——でも今はオーケストラの人気が上ってきているのでしょう。
潘　そうです。たとえば上海でベートーヴェンの交響曲9曲を全部やって切符をセットにした時は、みんな並んで買いました。人口が多い割にホールが小さいから（笑）。
川辺　オーケストラに入るのにはどんな方法があるのですか。
潘　方法は2つあります。一つは学校が推薦してくれる。もう一つは楽団のオーディションを受けて入る。
川辺　学校の成績で決ってしまうのですね。
楊　そうです。だから中央や上海のオーケストラに入るのはとても難しい。
潘　上海はいまチェロが足りないから、誰か行きませんか（笑）。今の若い人は外国に留学した人が多いようですね。
楊　小学校の優秀な子供の両親は全部プロです。自分で教えている。文化革命の時は何も仕事が無かったから、家で子供を教えていた。毎日8時間も10時間も。ほかにすることが無かったから。

楽器も松脂も国のもの

川辺　日本で中国のオーケストラを知っているのは小澤征爾が中央交響楽団を指揮したテレビくらいだと思うのですが、団員が感激して楽器を奏いているのが強く印象に残っています。
奥平　その時小澤さんが楽器が悪い、といっていましたが……。
楊　輸入しないからね。
方　外国の楽器は高いからなかなか買えない。でも中央交響楽団や上海交響楽団ではかなり外国製の楽器を使っている。特に管楽器。
今尾　日本にも中国製のヴァイオリンやファゴットなどが入ってきていますが、かなり作っているのですか。
潘　弦楽器も、管楽器も作っています。音楽学校に楽器製作科があって、そこで作り方を勉強しています。
松木　中国大使館の一等書記官である尹（イン）さん、この方は中央楽団でホルンを吹いていらしたのだそうですが、彼に楽器を買わないかと勧められました（笑）。ヴァイオリン作りの名人もいる、とのことでしたね。そうして組織的に作っているとすぐ上手くなるでしょうね。
楊　中国の人は自分の楽器は少ない、みんな国のもの。いつまででも使えます。
——弦もそうですか。
潘　そうです、松脂もです。
落合　オーケストラの活動費用は全部国の補助ですか。
潘　国の補助と会社などのスポンサーがある。何回かその会社に演奏会に行って援助してもらう。
落合　作曲家はどういう立場なのですか。
潘　ほとんどオーケストラに属していて、毎月給料をもらって作曲しています。
落合　これからの中国のオーケストラはどういう方向に進んでいくとお考えですか。
潘　政治体制が変わらなければ、今のまま続いていくでしょう。
——オーケストラの数はこれから増えませんか。
潘　お金がかかるから、すぐには大変でしょう。
落合　他の娯楽に比べてどうでしょうか。
潘　上海では一時ポピュラーなどが盛んになって、お客さんが少なくなった。シンフォニーはむずかしいから、ということで。でも今はシンフォニーのほうがレベルが高いということで人気が出てきた。若い人がガールフレンドを連れてクラシックの演奏会に行く傾向がある。でもまだ高級な趣味と考えている人が多い。
楊　そう急には変わらないね。
——今日はどうも有難うございました。

中国音楽作品ディスコグラフィー

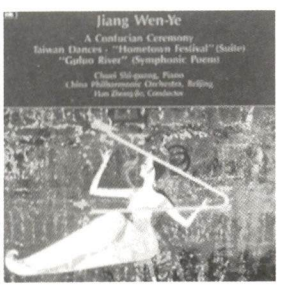
近藤　滋郎

▷このリストは(1)現在日本国内で発売されている〈◎印〉、(2)以前に発売されたことがある〈●印〉、(3)外国(主に香港)盤〈○印〉による中国人作品を中心にしたレコード・テープ・CDなどを、管弦楽曲、協奏曲、器楽・独奏曲、作曲家作品、オペラ・バレエに分類して並べてある。
▷●印（または◎印）はタイトルに沿ってはいるが、リスト製作上の都合で変更したものも少なくない。
▷曲名の後に、解っている範囲で作曲者を記した。
▷●印（または◎印）のレコード・テープ・CDなどの中に含まれている中国人以外の作品については省略したものがある。
▷また中国には伝統的な民族楽器だけによるオーケストラがあるが、そうした団体だけの音楽は一応除外した。
▷このリスト作製に当ってアルファ・ムーン㈱、東京文化会館音楽資料室、民音音楽資料館のご協力を得ました。

作曲家作品集

●丁善徳作品選
交響曲≪長征≫/新中国組曲/序曲 作品20
[演奏] 福村芳一指揮 香港管弦楽団

◎江文也作品選



台湾舞曲/孔廟大成楽章/交響詩≪ベキラ河≫/ピアノ独奏曲７曲
[演奏] 陳燮陽指揮 中央交響楽団、崔世光(p)

◎瞿小松作品選
弦楽交響楽/チェロとオーケストラのための≪山歌≫/ヴァイオリンとオーケストラのための≪山の女≫/交響組曲≪山と土風≫
[演奏] 陳燮陽、韓中杰指揮 中央交響楽団、胡国堯(Vc)、盛中国(Vn)

◎羅京京作品選



ピアノ協奏曲/3つの敦煌の歌—ピアノ独奏曲/メゾ・ソプラノとオーケストラのための二楽章
[演奏] 鄭小瑛指揮 中央歌劇院管弦楽団、季徳倫指揮 中央交響楽団、呉迎(p)、崔世光(p)、羅天嬋(Ms)

●汪立三ピアノ作品選
組曲≪東山魁夷画意≫/夢天/前奏曲とフーガ嬰ヘ長調≪書法と琴韻≫/前奏曲とフーガヘ短調≪山寨≫/蘭花花/兄妹開蒸/ソナチネ
[演奏] 顧国権(p)

●杜鳴心最新作品
ヴァイオリン協奏曲〈1982〉/交響詩≪洛川の神々≫/交響詩≪秋思≫
[演奏] 甄健豪指揮、香港管弦楽団、西崎たか子(Vn)

● WAN　XI—LIN
[演奏] Liu Qi 指揮 中央交響楽団有志

● WUT　MAN—CHUNG 作品集
琵琶協奏曲/伝説/ヴァイオリンとオーケストラのための６つの旋律
[演奏] 林克昌、Henry Shek 指揮、群馬交響楽団 Lam Fung(琵琶)、西崎たか子(Vn)

● WUT　MAN—CHUNG 作品集
パミール奇想曲 作品21/他
[演奏] Chen Chiu—Sen 指揮 新日本フィル、西崎たか子(Vn)、Tsui Tak—Ming(ハーモニカ)

オーケストラ

●中国管弦曲選(その１)
交響詩≪嗄達梅林≫(辛遐光)/ヤオ族舞曲(茅沅)/晩会(賀緑汀)/森吉徳瑪(賀緑汀)
[演奏] 林克昌指揮 名古屋フィル

●中国管弦曲選(その２)
交響曲≪長征≫(丁善徳)
[演奏] 林克昌指揮 名古屋フィル

◎中国管弦曲選(その３)
組曲≪春節≫より序曲(李煥之)/交響詩≪人民英雄紀念碑≫(瞿維)/舞踏組曲≪白毛女≫(李煥之など)
[演奏] 林克昌指揮 東京フィル

●中国管弦曲選(その４)
交響詩≪龍華塔≫/トランペットと太鼓/交響詩≪紅娘子≫/金色の孔雀/弦子舞



[演奏] 黄貽鈞、曹鵬、張振山指揮 上海交響楽団

◎中国管弦曲選(その５)
交響詩≪祖国の南海≫(杜鳴心)/山中新生(賀緑汀)/森吉徳瑪(賀緑汀)/晩会(賀緑汀)/節日序曲(施万春)/遙念(林玲)/山寨の節日(金巍)
[演奏]李徳倫、韓中杰、袁方指揮、中央交響楽団、中国放送交響楽団

●中国管弦曲選(その６)
中国奇想曲/幻想序曲≪梅園の雪景色≫/交響詩≪太行山≫/洱海風情
[演奏] 鄭小瑛、王西麟、方国慶指揮 中央歌劇院管弦楽団、中央交響楽団

○中国管弦曲選(その７)
11曲、訳不明(英語→中国語)
[演奏] ケネス・ジーン指揮 香港交響楽団

○中国管弦曲選〈テレビ・映画音楽〉
同　上
[演奏] ヘンリー・シェック、Varujan Kojian、ケネス・ジーン指揮、香港交響楽団、西崎たか子(Vn)

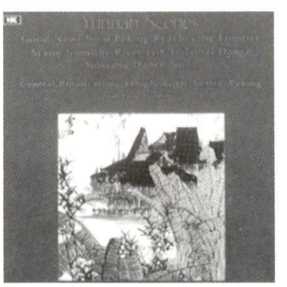
●中国管弦曲選(その８)
組曲≪人魚≫/収穫場の光景
[演奏] 林克昌指揮 群馬交響楽団

●中央交響楽団(その１)
交響曲≪海の歌≫(盛礼洪)
[演奏] 韓中杰指揮 中央交響楽団

●中央交響楽団(その２)
第２交響曲≪清明祭≫(陳培勲)/交響詩≪昨夜≫(田豊)
[演奏] 李徳倫、姚関栄指揮、中央交響楽団

●中央交響楽団「中国のメロディー」
[演奏] 陳燮陽指揮、中央交響楽団

●中国放送交響楽団(その１)
二泉映月/海の歌/春の喜び/他



[演奏] 袁方指揮　中国放送交響楽団

◎中国放送交響楽団(その２)
管弦楽組曲≪雲南音詩≫(王西麟)/第２新疆舞曲(丁善徳)/漓江音画(鄭路)/イ族舞曲(劉森安編曲)/北京喜訊到辺寨(鄭路、馬洪業　共作)
[演奏] 袁方指揮 中国放送交響楽団

●中国放送交響楽団(その３)
交響詩≪十面埋伏≫/３つの広東民謡(王昭君)
[演奏] 袁方指揮 中国放送交響楽団

●小沢＝ボストン響「中華人民共和国」
琵琶協奏曲≪草原の小姉妹≫(呉祖強)
[演奏] 小沢征爾指揮　ボストン交響楽団、劉徳海(琵琶)

●香港管弦楽団
彩雲追月/四季の歌/教我如何不想他/一根扁担/大江東去/茉莉花/紅豆詞/漁舟晩唱/綉荷包/二泉映月/小河淌水/採花撲蝶
[演奏] ケネス・ジーン指揮 香港管弦楽団

●第１交響楽団(羅忠鎔)
[演奏] 李徳倫指揮 中央交響楽団

●交響曲≪長征≫(丁善徳)
[演奏] 黄貽鈞指揮 上海交響楽団

●交響曲≪東方のあけぼの≫(施詠康)
[演奏] 陸洪恩指揮 上海交響楽団

●交響詩≪守れ！ 延安≫(羅忠鎔)
[演奏] 李徳倫指揮 中央交響楽団

●交響詩≪女将軍・穆桂英≫(中央楽団集団)
[演奏] 張孔凡指揮 中央交響楽団

交響詩≪黄い鶴の物語≫(施詠康)
[演奏] 陸洪恩指揮 上海交響楽団

●交響詩≪カタメリン≫(辛沪光)
[演奏] 黄飛立指揮 中央音楽学院管弦楽団

●≪節日序曲≫(施万春など)
[演奏] 黄飛立指揮 中央音楽学院管弦楽団

●≪南海の浜≫(楊草)

[演奏] 楊草指揮 広州交響楽団

●≪山林の歌≫(馬思聡)
[演奏] 黄貽鈞指揮 上海交響楽団

●≪鴨緑江回想曲≫(付昌)
[演奏] 趙瑞茅指揮 中国人民解放軍オーケストラ

●≪兎と亀の競争≫(史真栄)
[演奏] 黄佩勤指揮 中国福利会児童芸術劇院管弦楽団 徐惠蓮(朗読)

●祝賀舞曲集
[演奏] 社会主義好(李煥之)/晩会円舞曲(巩志偉)/春の舞(閻泰公)/送我一枝玫瑰花(黎錦光)/旱天雷/蕉石鳴琴/新春円舞曲(寄明)/花好月円(黄貽鈞～彭修文)
[演奏] 彭修文、黎国荃、劉森民、陸洪恩、黄貽鈞指揮、中央放送民族楽団、中央実験劇院管弦楽団、上海交響楽団、上影楽団管弦楽隊

●「中国不朽の名曲選」
[演奏] ケネス・ジーン指揮 読売日響

●黄河大合唱(冼星海～李煥之)
[演奏] 時楽濛指揮 中国人民解放軍政治部・歌舞団管弦楽隊

○カンタータ≪黄浦江≫
カンタータ≪辛福河≫/≪紅≫/≪飛天≫
[演奏] Situ Han 指揮 上海交響楽団及び合唱団

器楽・独奏曲

◎金力/ヴァイオリン・リサイタル
漁舟唱晩(古曲・黎国荃編)/慶豊作[豊作を祝う](張靖平)
[演奏] 金力(Vn)、黄蘭(p)

●抒情曲(秦泳誠)/祭日の歓舞(靳延年)
[演奏] 閻泰山(Vn)、呉書肇(p)

●西蔵音詩(馬思聡)/内蒙組曲(馬思聡)
[演奏] 鄭石生(Vn)、朱雅青(p)

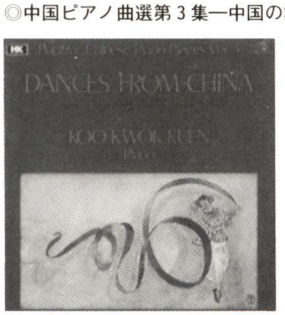
●牧歌(馬思聡)/揺籃曲(賀緑汀)/第1新疆舞曲(丁善徳)
[演奏] 林克昌(Vn、Vc)周広仁(P)呉楽懿(P)

●中国ヴァイオリン曲選
春節序曲/山歌/幻想曲/青山万里/新疆随想曲/蘇北の春/夏の夜/牧歌/在西北草原上/慶豊収/狂想曲(ラプソディ)
[演奏] 西崎たか子(Vn)、顧国権(p)

●中国ピアノ曲選
孔雀(楊振維)/児童組曲(丁善徳)/トッカータ≪喜報≫(丁善徳)/第1新疆舞曲(丁善徳)/穀粒飛舞(孫以強)/慢板〈アダージョ〉(陳健華)/思春(陳培勲)/売雑貨(陳培勲)/序曲第2号≪流水≫(朱踐耳)/新疆舞曲(郭志鴻)
[演奏] 蕭奕慶(p)

◎中国ピアノ曲選第2集「中国音画」
4つの広東音楽(陳培勲)/組曲≪巴蜀の絵≫(黄虎威)/陝北民歌(王建中編曲)/雲南民歌(沈傅祚)/内蒙民歌主題小曲(桑桐)
[演奏] 顧国権(p)

◎中国ピアノ曲選第3集—中国の舞曲



山歌と村舞(陳銘志)/採茶撲蝶(劉福安)/舞曲(王建中)/秧歌舞(殷承宗)/暁風の舞(丁徳善)/第1新疆舞曲(丁徳善)/第2新疆舞曲(丁徳善)/3つの人魚の舞(呉祖強、桂鳴心)/カシガル舞曲(石夫)/序曲と舞曲(黄安)
[演奏] 顧国権(p)

●中国ピアノ曲選第4集—王建中ピアノ作品
彩雲追月/白鳥朝鳳/梅花三弄/蝶恋花/5つの雲南の民歌/銹金匾/道情/瀏陽河/大路歌/トッカータ
[演奏] 馬常子(p)

●牧童短笛(賀緑汀)
[演奏] 李名強(p)

●カザック舞曲(冼星海)
[演奏] 周広仁(P)

●弦楽四重奏曲 ト長調(瞿維)
[演奏] 上海音楽学院女性四重奏団

●フルートとハープによる中国音楽
河畔の村/郷愁/他
[演奏] リー・フォルクスハウゼン(Fl)、モヤ・ライト(Hp)

●ヴァイオリンとギターによる中国旋律
曲目多数
[演奏] 西崎たか子(Vn)ジェラルト・ガルジア(g)

●柳浪陶鴛(譚沛黎)/娯楽昇天(楊華)/画眉跳架(鄭祖綿)
[演奏] 楊華指揮 広州交響楽団アンサンブル

協奏曲

◎ヴァイオリン協奏曲集
ヴァイオリン協奏曲≪憧郷情≫(胡海林)/ヴァイオリン協奏曲≪鹿回頭伝奇≫(宗江、何東共作)
[演奏] 李徳倫、袁方指揮 中央交響楽団、中国放送交響楽団、盛中新(Vn)

●ヴァイオリンとオーケストラ作品
Sai Li-mu Lake, On Hie Sea-Shores, The Bank of Rui-li River, Moon Over E-Mei Mt, Spring in Sinking, Valley, Golden Autumn
[演奏] 中央交響楽団、盛中国(Vn)

●ヴァイオリン協奏曲≪梁山伯と祝英台≫(何占豪～陳鋼)
[演奏] 樊承武指揮 上海音楽学院管弦楽団、俞麗昆(Vn)

●中国ヴァイオリン曲選
ヴァイオリン協奏曲≪梁山伯と祝英台≫(何占豪～陳鋼)/五指山歌/漁舟唱晩(黎国荃編曲)/情歌(秦詠誠)/新疆の春(李漢中、馬耀先)/舞曲(靳延平)/新春楽(茅沅)
[演奏] 林克昌指揮 名古屋フィル、西崎たか子(Vn)、蕭奕慶(p)

●ヴァイオリンとオーケストラのための10の新疆舞曲(杜鳴心)
[演奏] 朱暉指揮、西崎たか子(Vn)

●泉に映える月[二泉映月](華彦鈞)
四季の調べ/ひでりの雷
[演奏] 何占豪(Vn)、上海音楽学院管弦楽団

●ヴァイオリン協奏曲≪洪湖≫(A KE=JIAN)
新疆民謡的幻想曲(陳鋼)/ヴァイオリン協奏曲〈1982〉(杜鳴心)
[演奏] 朱暉、ケネス・ジーン指揮 シンガポール交響楽団、香港フィルハーモニー管弦楽団、西崎たか子(Vn)

●中国管弦曲選
ヴァイオリン協奏曲≪洪湖≫(A KE=JIAN)/新疆民謡幻想曲(陳鋼)/馬車/草原の喜び/陝北組曲/歓慶舞曲
[演奏] 朱暉指揮 シンガポール交響楽団、西崎たか子(Vn)

○ヴァイオリン協奏曲≪梁山伯と祝英台≫(何占豪、陳鋼)
交響詩≪洛川の神々≫(杜鳴心)/交響詩≪秋思≫(杜鳴心)
[演奏] ヘンリー・シェック、ケネス・ジーン指揮、群馬交響楽団、香港交響楽団、西崎たか子(Vn)

○協奏曲名曲選
ピアノ協奏曲≪黄河≫(中央音楽集団)/ヴァイオリン協奏曲≪梁祝≫(何占豪～陳鋼)
[演奏] ユージン・オーマンディ、林克昌指揮、フィラデルフィア管、名古屋フィル、西崎たか子(Vn)、ダニエル・エプスティン(p)

●ピアノ協奏曲≪青年≫(劉詩昆ほか)
[演奏] 朱工一指揮 中央音楽学院民族楽団

●中国管弦楽曲選第3集
ピアノ協奏曲≪黄河≫(中央音楽集団)第一新疆舞曲(丁善徳)/康蔵組曲/ひ猟舞曲/中国民謡幻想曲
[演奏] 林克昌指揮 群馬交響楽団

○ピアノ協奏曲≪梁山伯と祝英台≫(何占豪—陳鋼)
1930、40年代の民謡(CHEN GEXIN)
[演奏] ケネス・シャーマンホーン指揮、香港交響楽団、Hsu Fei-Ping(pf)、Chen Dong(Br)

○竹笛協奏曲
[演奏] Hsu Sung-jeu 指揮 読売日本交響楽団、Chen Chung-Shen(竹笛)、三橋貴風(尺八)

●オーボエ協奏曲≪劉胡蘭≫(李桐樹)
[演奏] 程義明指揮 中国人民解放軍オーケストラ

民族楽器

◎中国琵琶名曲選
琵琶協奏曲≪草原の小姉妹≫(呉祖強)A/十面埋伏B/歌舞引(劉天草)C/小月児高/寒鴉戯水/陽春白雪
[演奏] 李徳倫指揮 中央音楽学院、紅領巾楽団、琵琶独奏：劉徳海(A)、李光祖(B)、何樹鳳(C以下)

●中国琵琶曲選
琵琶協奏曲≪十面埋伏≫/イ族舞曲/塞上曲/高上流水/送我一朶玫瑰花/大浪淘沙
[演奏] 林克昌指揮 群馬交響楽団、林風(琵琶)

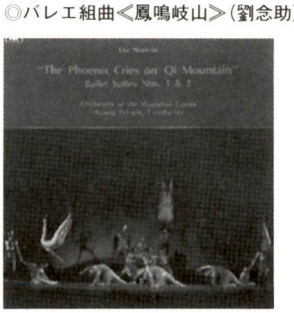
◎徐紅・琵琶独奏



叙事曲≪琵琶行≫(劉永、張暁峰)/覇王御甲(孫裕徳編曲)/イ族舞曲(王恵然)/浣紗女(張暁峰)/大浪淘沙(草彦釣)/思郷(閔惠昌)/倒垂簾/天山の春(俞礼純作曲、五範地編曲)
[演奏] 張振山、朱暁谷指揮、上海交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、徐紅(琵琶)

オペラ・バレエ

◎バレエ組曲≪鳳鳴岐山≫(劉念助)



[演奏] 黄佩勤指揮 上海歌劇院管弦楽団

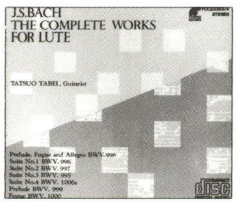
●歌劇≪百番目の花嫁≫
[演奏] 鄭小瑛指揮 中央歌劇院管弦楽団及び合唱団及び独唱者

●歌劇≪草原の歌≫(羅宗賢/卓明理)
[演奏] 鄭小瑛指揮 中央歌劇院独唱者及び管弦楽団

●バレエ音楽≪美しい人魚≫抜粋(杜鳴心・呉祖強)
[演奏] 黄飛立指揮 中央音楽学院管弦楽団

フォンテック新譜ディスコグラフィー 好評発売中

「田部井辰雄／プレリュード」
(FONC-5024・LP)
「大聖堂／田部井辰雄ギター・リサイタル」
(FONC-5045・LP)
に続く第3弾。



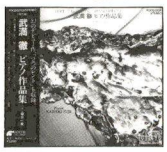
(曲目)
プレリュード
フーガ
アレグロ BWV.998
リュート組曲 (全4曲)
プレリュード BWV.999
フーガ BWV.1000

J.S.バッハ リュートのための作品全集

田部井辰雄さんのギターによる演奏は、現在最も信頼できる新バッハ全集をテクストとし、一音もおろそかにしない誠実さと、こまやかな詩情がまことに印象的だ。
(角倉一朗：東京芸術大学教授)

田部井辰雄(ギター)
FOCD-3203/4(CD 2枚組)¥6,400

武満 徹/ピアノ作品集



1.雨の樹素描
2.閉じた眼
3.フォー・アウェイ
4.ピアノ・ディスタンス
5.遮られない休息
6.2つのレント(世界初録音)

藤井一興(ピアノ)　FOCD-3202(CD)¥3,200

中井正子 ドビュッシー/12の練習曲集

—自筆原稿からの厳密な校訂による—



1.〈五指〉のための 2.〈三度〉のための
3.〈四度〉のための 4.〈六度〉のための
5.〈八度〉のための 6.〈八指〉のための
7.半音階のための 8.装飾音のための
9.反復音のための
10.対比させられる響きのための
11.〈みあわされたアルペッジョのための
12.和音のための
+〈みあわされたアルペッジョのための習作

解説／平島正郎・浅田 彰・小鍛冶邦隆

中井正子(ピアノ)　FONC-5071(LP)¥2,500

花房晴美 ドビュッシー前奏曲集第2巻



1.霧 2.枯葉 3.酒の門
4.仙女は優れた踊り手なり
5.ヒースの生い茂る土地
6.風変りのラヴィーヌ将軍
7.月光に映ゆる謁見の露台
8.水の精 9.ピックウィック殿下礼讃
10.カノープ 11.交替する3度 12.花火

花房晴美(ピアノ)　FONC-5072(LP)¥2,500

●1984年4月21日／東京新宿文化センター実況録音
●使用楽器：スタインウェイ(ニューヨーク)



「花房晴美 ドビュッシー前奏曲集第1巻」
亜麻色の髪の乙女　他全12曲
花房晴美(ピアノ)
FONC-5063(LP)¥2,500



「花房晴美 ラヴェルアルバム」
夜のガスパール・鏡
花房晴美(ピアノ)
FONC-5035(LP)¥2,500

●全国の有名レコード店にて好評発売中

次代をになうクラシックの逸材

第3回日本国際音楽コンクールでの熱演を収録

■ラン・ツェマッハ IMCJ イン ライブ
ショパン：P協1番他　FONC-5074(LP)¥2,500

■アンドレイ・ディエフ IMCJ イン ライブ
プロコフィエフ：P協2番他　FONC-5075(LP)¥2,500

■マクシム・フェドトフ IMCJ イン ライブ
チャイコフスキー：Vn.協他　FONC-5076(LP)¥2,500

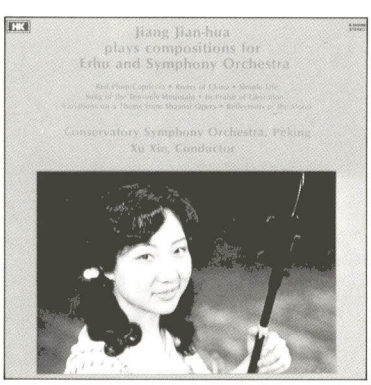
以上、手塚幸紀 指揮／東京都交響楽団

■第3回日本国際音楽コンクール〈Pf.〉
アンドレイ・ディエフ／プロコフィエフ：ソナタ6番より
ラン・ツェマッハ／シューマン：幻想曲ハ長調より
田中修二／ショパン：ソナタ3番より
イー・ミ・ジュー／ハイドン：ソナタ変ホ長調Hob.XVI-49
オレグ・ボリャンスキー／ラフマニノフ：音の絵より9番
東誠三／野田暉行：Pf.のためのオードカプリシャス
アルフレード・ペルル／ラヴェル：夜のガスパールより
児玉典子／ラヴェル：鏡より
FONX-5019/20(LP2枚組)¥5,000

■第3回日本国際音楽コンクール〈Vn.〉
マクシム・フェドトフ／プロコフィエフ：ソナタ1番　一柳慧／展望
エーヴァ・コスキネン／ラヴェル：ソナタ
チャイ・リアン／ヘンデル：ソナタニ長調
菅野美絵子／バルトーク：ソナタ2番
中村静香／シマノフスキ：夜想曲とタランテラ
戸田弥生／ブラームス：ソナタ1番より
瀬川祥子／イザイ：無伴奏ソナタOp.27-3
FONX-5021/22(LP2枚組)¥5,000

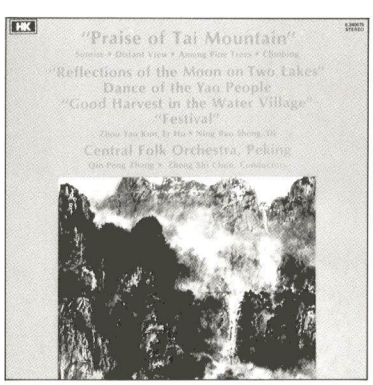
FONTEC RECORDS
株式会社フォンテック
☎03-393-0183(代)

「二泉映月」2題。



姜建華(チャン・チェンフォア)二胡独奏
「紅梅」随想曲、二泉映月、江河水 他
中央音楽学院「紅領巾」楽隊／徐新(シュウ・シン)指揮

●中国の民族楽器、二胡の名曲集。演奏者姜建華は、1984年11月に来日し、日本にも多くのファンを持つ。
HKM-23001(HK6.340098)¥2,300



中国民族楽団「泰山頌」
泰山頌、二泉映月、ヤオ族舞曲、水郷豊牧人歓暢 他
二胡：チョウ・ヤオクン、笛子：寧保生(ニン・バオシェン)他

●民族楽器のオーケストラのための創作楽曲、改編曲を集めたアルバム。
HKM-23018(HK6.340075)¥2,300

中国音楽不朽の名作!!
「梁山伯と祝英台」
(バタフライ・ラバー)



「梁祝」協奏曲(バタフライ・ラバー)
蕉林喜雨、鳥投林、昭君怨、連環扣 他
琵琶：何樹英(フウ・チュウイン)

●中国バイオリン音楽史上の不朽の名作「梁祝協奏曲」を作曲家の1人何占豪が琵琶と民族楽器オーケストラ演奏用に改編したもの。
HKM-23014(HK6.340215)¥2,300

中国音楽 伝統と現代シリーズ 全20枚

監修：国立歴史民俗博物館教授　小島美子

中国9楽団と12人の指揮者、20余人のソリストによる全125作品!
中国音楽の粋を集めて幅広く多彩な音楽様式、演奏形態を今、中国第1級の演奏と歌で紹介する本邦初、輸入盤による中国音楽の全て!!

●直輸入盤●125作品収録
●楽器解説・歌曲譜面対訳入
●36頁別冊解説書付●日本語タスキ付
●日本ビクター㈱プレス
HKM-46001(20枚組)
¥46,000

HK

●このシリーズのマスター及びプレスは日本ビクター株製造によるもので高品質高音質です。
お問い合せ先/パンフレット御請求先：東京　アルファ・ムーン販売促進課 ☎03(479)7271代 〒107 東京都港区元赤坂1-4-2 知性ビル4F

輸入元 アルファ・ムーン株式会社



みんなの笑顔にかこまれて一番輝いている今日のわたし。
あたたかい祝福の言葉をどうもありがとう。
「おかみさん」なんていわれる頃になってもどこかかわいい女でいたいから、
この日の感激、いつまでも大切にします。

幸せのかおりがする、ひと。

ビューティフル ウェディング

手毬（てまり）	60名様	1,110,000円 （お1人様増減ごとに16,000円）
簪（かんざし）	60名様	1,320,000円 （お1人様増減ごとに20,000円）
雅（みやび）	60名様	1,480,000円 （お1人様増減ごとに22,000円）

●各プランは、挙式＋披露宴のセットです（税・サ含）。

期間　62年9月1日(火)～63年6月30日(木)

ご婚礼特典

●伊良湖ビューホテルまたは、那須ビューホテルへご両家のご両親を1泊朝・夕食無料ご招待。（簪・雅プラン）

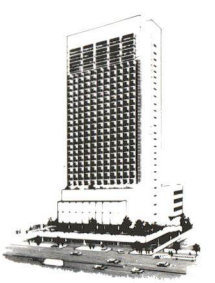
●ご媒妁人の方に記念写真プレゼント。

●ご披露宴当日ハネムーンルームへ1泊朝食無料ご招待。（お部屋にフルーツ・シャンパン・キャンディをサービス）

●ホテルより記念品プレゼント。（手毬プラン）

●ご披露宴出席者のご宿泊料金を30%割引。

●引出物にホテル特製コーヒーカップお選びのお客さまには特別料金にて販売。（コーヒーカップ 2客3,600円）



ご婚礼予約受付中

浅草ビューホテル

東京都台東区西浅草3-17-1 〒111 ☎(03)842-2111

出演者紹介

左　　军

1966年生于中国江西省。上海音乐学院附中毕业后进入上海音乐学院。

1984年获中国全国青少年小提琴比富第2名。

芥川也寸志音乐导演1985年访问上海音乐学院时，听了数名学生的示范演奏。他对演奏萨拉萨蒂《卡门幻想曲》的左军之杰出的技艺和丰富的音乐性深表惊讶，当时向桑桐院长表示，愿邀其访日，终于在今天得到实现。

芥川也寸志简历

1925年生于东京。1943年东京高等师范附中毕业后进入东京音乐学校予科作曲专业。和声从师于下总皖一，对位法从师于细川碧，作曲从师于桥本国彦，钢琴从师于永井进，战后听到东京音乐学校讲师伊福部昭氏的讲义后深受感动，后一直受其影响。1949年东京音乐学校研究科修了。1950年因“交响管弦乐的音乐”而获得NHK创立25周年记念管弦乐曲是赏特等奖。1953年《弦乐三乐章(トリプティーク)》获华沙音乐节作曲奖。同年与团伊玖磨、黛敏郎结成“三人会”，1954年1月举行第一次音乐会。1967年《广岛的奥尔菲》获萨尔茨堡歌剧比富第1名。其他因电影音乐等获每日电影奖、兰绸带音乐奖、日本文艺奖、意大利奖等。此外他担当TBS广播电台“百万人的音乐”节目和NHK电视台“N响时刻”节目主持人，并有《我的音乐谈》、《音乐乐园》等多种著作出版。

现为新交响乐团音乐导演、常任指挥。日本作曲家协议会会长、日本音乐版权协会（JASRAC）理事长。

新交响乐团简介

新交响乐团（简称“新响”）创建于1956年3月，是30年来由东京近郊百余名团员自己主办的日本最大业余交响乐团。团员职业有公司职员、个体户、主妇、学生等多种多样。

创立以来，在音乐导演芥川也寸志指导下，曾到苏联，归还前的冲绳及国内各地进行演出旅行。演奏曲目1966年创立十周年时演奏了贝多芬交响曲全曲、1970年一举演出了斯特拉文斯基的3部曲，逐步增加。1976年举行了广泛介绍鲜为人知的日本人作品的《日本交响作品展览会》，获第8次三得利音乐奖。该展览会每年一次连续举行，至去年已达10次。1979年第86届演奏会以来，在名誉指挥山田一雄的领导下，向G·马勒的交响曲挑战、迄今已举行丁次马勒演奏会。

新响除每年举行4次自己主办演奏会外，还接受公共团体、学校等邀请，举行演奏会。自己主办的演奏会没有连续性的公共机关、民间团体的财政援助，由团员本身和听众组织的维持会制度负担。

新响正在通过自己创造的音乐演奏，发掘业余交响乐团的最大可能性。

作曲家紹介

李焕之（1919～　　）原籍福建晋江，生于香港。1936年入上海国立音专从师于肖友梅。抗战爆发后，在厦门、香港等地从事革命歌曲创作。1938年就读于延安鲁艺音乐系，结业后留校任教，并主编《民族音乐》。解放战争时期，任华北联大文艺学院音乐系主任。建国后，一直活跃在音乐战线，现任中国音乐家协会副主席。四十余年来，创作了大量音乐作品，除了传唱一时的《民主建国进行曲》、《新中国青年进行曲》、《社会主义好》等歌曲外，主要有管弦乐《春节组曲》、《第一交响乐——英雄海岛》，古琴弦歌合唱《苏武》，古筝协奏曲《汨罗江幻想曲》，独幕歌剧《导国之秋》等，还编有《作曲教程》，并撰写了三百余篇论文，部分收入《音乐创作散论》一书。

吴祖强（1927～　　）原籍江苏武进，生于北京。少时从作曲家张定和、歌唱家盛家伦等学习音乐。1947年入南京国立音乐院从江定仙学习作曲。1953年去莫斯科柴可夫斯基音乐学院专修理论作曲。1958年回国后在中央音乐学院任教，现任该院副院长。主要作品有《钢琴变奏曲》、《弦乐四重奏》、交响音画《在祖国大地上》、清唱剧《与洪水搏斗》（以上为留学期间的作品），舞剧音乐《鱼美人》、《红色娘子军》（均与杜鸣心等合作），琵琶协奏曲《草原小姐妹》（与刘德海、王燕樵合作），根据同名乐曲改编的弦乐合奏《二泉映月》、琵琶与管弦乐协奏音诗《春江花月夜》、二胡与管弦乐合奏《江河水》等。后两首作品曾在美国波士顿交响乐团主办的夏季音乐节上公演。此外，还写了一些话剧、电影音乐和其他器乐、声乐作品，并结合教学编著了《曲式写作品分析》一书。

朱践耳（1922～　　）安徽泾县人。中学时就自学作曲，后在新四军前线剧团和华东军区文工团工作。从1949年起，先后在上影、北影、新影、上海歌剧院、上海交响乐团任专职作曲。1955年去莫斯科柴可夫斯基音乐学院学习作曲。主要作品有管弦乐《节日序曲》，交

响大合唱《英雄的诗篇》、交响幻想曲《记念为真理而献身的勇士》（全国交响音乐作品评逸活动中获得优秀奖）、弦乐合奏《怀念》，及室内乐《弦乐四重奏》等大中型器乐作品和钢琴曲《主题及变奏曲》、《思凡》、《序曲》（第一号、第二号）与双簧管独奏曲和电影音乐《在烈火中永生》等。群众歌曲方面除了解放战争时期创作的《打得好》、《敲碎你的脑袋》广为传唱外，建国后写的《唱支山歌给党听》、《接过雷锋的枪》等作品更是脍炙人口。

楽曲解説

管弦乐《春节序曲——大秧歌》

这是管弦乐《春节组曲》的第一乐章。该组曲写于1955年—1956年间，共有四个乐章。是作曲家李焕之根据当年在延安过春节时的生活体验与感受写成的。整个组曲的音乐主题，多采用了陕北地区的秧歌调与民间唢呐曲调，并带有舞蹈形象的特色，强烈体现了中华民族传统节日的欢乐情调与气氛。

这次音乐会演奏的是第一乐章《序曲一大秧歌》，表现了闹秧歌时的锣鼓和歌声，秧歌舞者们的舞姿与灵巧变幻的队形，以及一唱百合的群舞场面。

弦乐合奏曲《二泉映月》

原为民间音乐家华彦均创作的二胡独奏曲，七十年代末由作曲家吴祖强编曲为弦乐器合奏。

江苏省无锡市近郊的名胜古迹惠山公园内有一眼惠山泉、被称为“天下第二泉”，当年的华彦均经常到此处歇息，或傍山依泉演奏二胡与琵琶以抒怀；或端坐泉边凝神沉思忆往事。该曲《二泉映月》的含意，就是表现这位性格刚韧、但又饱尝了世间辛酸的盲艺人，以音乐所塑造的夜阑人静、泉清月冷的意境，用酿自内心的动人旋律，向人们倾吐他的坎坷人生、以及对幸福的憧憬和顽强的生活意志。经吴祖强编曲的弦乐合奏，由于采用了和声、变调等管弦乐法的手段，增强了表现力，使原曲的意境更为栩栩如生。

D大调小提琴协奏曲（作品85）

柴可夫斯基的这部举世闻名的作品写于1878年。它和同年完成的悲剧性的歌剧《叶甫根尼·奥涅金》和《第四交响曲》迥然不同，充满乐观、明朗的情绪，并具有俄罗斯民间音乐的风味。规模宏大的第一乐章（奏鸣曲式）表现生活的乐趣。动人的第一主题富于歌唱性，具有俄罗斯民歌宽广的气息。

富于诗意的第二主题明朗、悠扬，具有柴可夫斯基典型音调的特征（音调的模进、感情的积聚，以及改变节拍重音以突出所要强调的音等）。

而在表现节日般欢乐气氛的插部中，第一主题又变材得充满朝气，成了一首鼓舞人心的进行曲。行板的第二乐章（三部曲式）以其沉思般的抒情与第一乐章形成对比，称为“小抒情曲”。主要旋律真挚动人，略带伤感，中间对比的部分则激动而愉快，调性也由暗谈的小调转为明朗的大调。末乐章（奏鸣回旋曲式）是一幅人民节日欢乐的图画，两个主要主题的音乐形象和发展手法都形成了对比。第一主题轻快活跃，是一支俄罗斯舞曲，以奏鸣曲式的发展手法来展开。第二主题充满活力，同样是舞蹈性的形象，但用俄罗斯民间的色彩性变奏手法来展开。两个舞蹈性主题的发展，再现了民间舞蹈的热烈情景。作曲家并在第二主题中加入一支抒情的曲调，更好地衬托着本乐章热烈欢快的情绪。尾声以第一主题为基础，再一次总结了这部协奏曲愉快、欢欣鼓舞的情绪。

管弦音乐诗《纳西一奇》

该曲写于1983年末，首演于1984年5月上海市举行的第十一届《音乐舞蹈节—上海之春》音乐会。曲名中所称“纳西”，是分布于中国云南省西北部的一个古老少数民族“纳西族”，人口约有十六万，首府丽江县，位于长江上游第一转弯处与终年积雪的玉龙山下，纳西族人民就长年生活在这依山傍水的古老绮丽自然风光中。作曲家朱践耳曾两次奔赴纳西族居住地，不但为当地丰富的民间音乐所迷恋，而且钟爱着纳西族人民的勇敢豪放、深沉多情的民族性格，遂即产生了创作此曲的灵感，其音乐素材也来自纳西族的各种民间音乐。曲名《纳西一奇》的含意就是纳西族传统文化珍宝之一奇——古老的民间音乐。

该曲继承了中国古代音乐与诗相结合，用音乐描写古典诗歌的传统，四个乐章都有明确的标题，第一乐章《铜盆滴漏》，描写古代纳西族以铜盆滴水计时的滴漏，在乐章之首与每段音乐主题之间，都可听到水滴落在铜盆时的回响乐音及意境。第二乐章《蜜蜂过江》，描写了在鲜花开遍山岗的春天，成群结队的蜜蜂飞过大江的情景。第三乐章《母女夜话》，刻画了夜深人静的竹屋里母女语重心长的对话，整个乐章充满了幻想情调，第四乐章《狗追马鹿》，通过诙谐幽默的舞蹈性第一主题和刚健粗犷、充满山野风味的号角性第二主题，刻画了纳西族人民的狩猎与节日的欢乐生活场面。

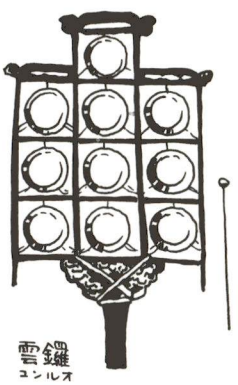
訪中雑記

上原　誠（新交響楽団打楽器奏者）

上海へ行くことになった動機

中国作品プロが候補に上がりはじめた頃、今までの邦人作品に出現する特殊楽器に悩まされてきた（実は秘かな楽しみでもあった）我々打楽器のメンバーにとって、さらなる困難への不安が募るなかで、「行くしかないかも知れない」と言い出したのは中川君（打楽器）でした。

渡された楽譜のうち、春節については手元の資料で楽器の正体もわかり、更に幸いなことに、東京交響楽団から現物を拝借することができましたが、≪納西一奇≫については、排鼓・掬子・雲羅といった見馴れない楽器名が記されています。我々はどんな特殊楽器でも、自分たちで調達し、自分たちで演奏します。「叩けば誰でも音が出る打楽器なんか、そんなこと当り前」とお思いのかたはまさかいないでしょうが、小太鼓と大太鼓との差は、弦で言えばヴァイオリンとコントラバス程の違いでしょう。そして更に、マンドリンからアルパ、箏、胡弓等々、発音原理、ジャンルに関し、より多方面に渡っています。実際、打面の材質をとってみても、皮、プラスチック、木、金属、石など、それぞれ違った奏法が必要です。しかし、それだけに音を造ってゆく楽しみは格別で、その為にも曲や楽器について理解を深める必要があります。



練習が進むにつれ、曲、楽器に関して不安のまま本番を迎えるわけには行かないという思いは高まり、ついに中川君が上海へ行くことを決心しました。彼の本職（宝飾品関係）にとっても上海は魅力的な所であったようです。そうなると私としても、邦楽やアジア民族芸能に至るまで、長年蓄積した資料を活かすチャンスでもあり、同行することにしました。

出発まで

渡航の準備は中川君が引き受け、最初はフリーのツアーを物色しましたが、広告は出ていても人が集まらずキャンセルとなり、さらに個人で訪中する場合ビザの取得に２～３週間を要することがわかり、中川君の奔走もみのらず、結局ビザが簡単に取れる香港を経由して上海に入ることに決ったのが、ほんの１週間ほど前でした。

やっとスケジュールが決まり、中川君が芥川先生に報告かたがた紹介状をいただきに伺ったところ、先生は我々の「行けば何とかなる」という甘い考えを厳しく指摘され、自ら紹介状を書き、先方へのテレックス、中国関係者の名刺と共に一人一人の説明など、懇切丁寧な準備をして下さいました。もしこのお骨折りが無ければ、我々の訪中がほとんど徒労に終わっていたに違いないことを何回も感じました。

いよいよ上海へ

香港でのビザ待ちの時間を有意義に過ごした後、いよいよ本番、上海空港へ到着です。外へは出たものの、迎えの様子は無く、不安な面持ちの我々に、手にしたJASRACの袋を見つけて声を掛けて下さったのは、111回演奏会のレセプションにも参加して下さった上海交響楽団音楽監督の陳燮陽先生でした。二昔前のニュース映画のセピア色の世界に飛び込んだ様な上海郊外から街へ入り、一まず上海交響楽団へ。録音の為出払っている大きな建物は何の音もしません。しばらく外で待つ間、陳先生自ら我々のホテルをとって下さいました。折から上海では見本市が開かれ、ホテルは満員だと機内で心配してくれた人がいましたが、我々のホテル静安賓館のマネージャーは陳先生と友達とのこと、ベルギー領事館の貸切フロアの一角の部屋は特別の計らいだったのでしょう。



上海中心街〝南京東路（ナンチントンルー）〟の雑沓

ホテルに着いてあらためて来訪の挨拶と芥川先生からお預りした手紙をお渡ししました。陳先生の電話連絡により、朱先生は夜８時に我々を尋ねて下さることになりました。時間ちょうどにいらした先生は意外と親しみの持てるかたでした。上海文化局の馮氏を通訳として先ずは訪問の御挨拶、芥川先生からの手紙と来日の為の手続きが整った旨を示す書類のコピーをお渡ししまして、すぐに本題にはいりました。

先ず我々は常に作曲家の意向に忠実に、指定どうりの楽器を使うようにしているので、今回の中国楽器がどのような物か詳しく知りたい、できれば購入したいが、困難なら代用できる楽器は何か知りたい、と言う事を伝え、我々が準備している音の録音を聞いていただきながら、約１時間強一つずつ詳しく教えていただきました。楽器購入の希望については、上海交響楽団の打楽器の張子海氏に翌日我々を尋ねるように伝える旨を約束して下さり、お別れしました。我々は勿論、

朱先生も大変御喜びの様子でした。

所期の目的がほぼ達成できた事、今までの楽器に関する準備が大体当たっていた事が解り、我々はそのままホテルのバーで乾盃しました。

翌日、午後２時の張氏との約束までの間、上海の町へ出てみました。平日だというのに物凄い人出は車道まで溢れ、しかもほとんど信号は守られないので、出祖汽車（タクシー）は人垣をかきわける様にして走ります。自転車も多く、酷い所では、４車線の中央１車線のみでバス・トラック・タクシーが往復する有様でした。

再びホテルに戻って迎えた張氏は、年齢は40前後、迫力ある好人物でした。昨日の馮氏を介し、上響の楽器の事、曲の事などを話しましたが、我々の希望する楽器については今すぐに上海では手に入らない、そのかわり上響から木魚とドラをプレゼントするとの申出でした（もちろん本日の演奏会で使用します）。２時間後、楽器を携えて独りでもどった張氏と身振り手振りと筆談で奏法などを教わり、更に張氏自作のバチのプレゼントに我々は精一杯の感謝の気持を示して別れました。前後しますが、張氏再来訪の前に、上海音楽学院副院長の張敦智先生がおいでになり、思った以上に「VIP 扱い」されている事に恐縮したものでした。

そしてフィナーレ

陳先生ご夫妻の案内で朱先生と上響事務局の方２人の待つ同ホテルのレストランへ、フィナーレはお世話になった方々との晩餐です。元京劇のスターだった陳先生の奥様は目を見張るような美人で、京都に１年いらした為日本語もお上手、日大芸術学部で京劇と歌舞伎の比較を講じた事もあると言う正に才色兼備の方です。この方を通訳に得た事は我々にとって二重の喜びでした。

朱先生の隣に座った私は、お互いにおぼつかない英語で色々お話ししました。特に印象深かったのは昨晩テレビで見た時計のコマーシャルの事、――落下する水滴に広がる波紋、そして何と、あの“銅盆滴漏”の文字が現れたのでした。それは正に今回の幸運を象徴するような光景でした。――この事を朱先生にお話ししたところ、それは水時計といい、更に時を告げる２人の男がいて、若い方が時の数だけ木の拂子を叩き、老いた方がドラを叩いて時報としていた。それが本日演奏する≪納西一奇≫第１曲冒頭のウッドブロックとゴングの部分で、木魚・ハープ・クラリネットに水滴を現わすパターンが有ると言うお話でした。他には、恋人同士の呼び交わしに言葉の代りに用いられた口弦と言うジュースハープに似た３本リードの楽器の事、そしてその３つの音のパターンは第４曲最初のティンパニにつながっている事、朱先生の奥様は納西族の出身である事などを直接伺いました。

この日は翌朝早いので早めにお開きとし、お互いに東京での再会を約束し、お礼の言葉と共に握手を交わして、皆様と再見（ツァイチェン＝さよなら）。

僅か１日半の滞在でしたが、急な訪問にもかかわらず、皆様本当に誠意を持って対応して下さり、有意義で得難い体験をする事ができました。

帰国

再度香港を経由して帰国、成田の外は大雪というとんだオマケがつきました。

帰国最初の練習での春節のアレグロはとても懐かしく中国が思い出され、感慨一入でした。



上海最後の晩　右端朱先生、左から陳先生、中川、上原

HIROYUKI ODANO conducts
ORCHESTRE DE TAKADANOBABA
SEIJI KAGEYAMA, Violin

Wagner: Tannhäuser - Overture
Brahms: Concerto for Violin and Orchestra in D major, op. 77
Brahms: Symphony No. 4 in E minor, op. 98

高田馬場管絃楽団第25回定期演奏会　1987年６月６日(土)　午後６時30分開演　杉並公会堂

当団では、ただいま弦楽器の団員を募集しております。入団希望者は募集事務局宛に電話、葉書などでご連絡下さい。
募集事務担当：種邑由紀夫(たむら ゆきお)　〒351 和光市下新倉1880-1クラウンハイツ203 TEL 0484-64-9857


音楽にみちた一日が好きです。
JASRAC
日本音楽著作権協会
理事長　芥川也寸志